

ダイアログの場の作り方 プロセスデザイン その1

今回はダイアログの場をつくり方として、プロセスデザインをご紹介します。
いただきます。

仲間とダイアログしながら学び合う、そんな環境をつくりたい人にオススメです。
この資料が1歩を踏み出せるきっかけになれば嬉しいです。

プロセスデザインというのは、ダイアログの場のプログラムを進める中でのプロセス、つまり手順や過程などを描くことです。今回はダイアログの場をつくる時はじまりから終わりまでの僕のプロセスの描き方をお話ししていきます。

まず最初に行うことは、場の目的とゴールとメンバーを考えること。「何のために誰と何をするのか」、まず最初にそれを考えることから行います。

そしてそのあとは、オープニングとエンディングの時間を全体から差し引いて、そしてその間にSTEP1～STEP3の3種類のテーマを入れて3部構成で内容を考えます。その3部構成の時間は「問いづくり」「発散」「収束」という流れが僕が場をつくる時の基本となっています。

つまり、「オープニング」「問いづくり」「発散」「収束」「エンディング」という順です。

例えば2時間のダイアログの場合としたら、あいさつ、目的の共有、自己紹介を含んだオープニングに15分、まとめや質疑応答などの時間を含めたエンディングに10分と言ったカタチで、残り95分で3部構成の部分を考えます。

その3部構成の部分に「問いづくり」「発散」「収束」というテーマを入れて、実際に何を行うのか、それを考えていきます。それで、ここでのポイントがアクティビティを詰め込みすぎないことです。

ちなみに、アクティビティとは、ワークショップスタイルにおけるワークの部分、行動や遊びを指します。

たとえ2時間のダイアログの場合でも、ダイアログを行うということに重きを置くと、実際にやれることは知れています。色んなことをすればするほど落ち着いてダイアログすることができなくなりますので。

例えば、読書会であれば「読書」というアクティビティがここに入りますが、私が普段行っている読書会のスタイルであれば、2つのテーマに分断されて「問いづくり」と「発散」の部分に読書が入ります。

読書をするうえでの「質問づくり」は最初のSTEP1に「問いづくり」に入り、読書を行ってキーワードを書き出すのはSTEP2の「発散」のところに入ります。なので一概に「読書」といっても、アクティビティによって、どこのテーマに入るのかが変わってきます。

WORD JUNGLE がとてもわかりやすい流れですね。このダイアログの場づくりの手法は、今回お話ししている流れに沿って出来上がっています。なので、ひとつの型としてWORD JUNGLE をくり返し実践されるのが、今回の内容を一番早く理解することにつながるはずです。

では実際にダイアログの場を考えてみましょう。まずは付箋(75mm×75mm)を8枚準備してください。

その付箋に、1枚目「参加者」、2枚目「ゴール」、3枚目「目的」、4枚目「オープニング」、5枚目「STEP.1」、6枚目「STEP.2」、7枚目「STEP.3」、8枚目「エンディング」とそれぞれ書き込みます。

まずは1枚目の「参加者」の付箋に、一緒にダイアログしたい人を書き出してください。できれば実在の人物でその人のお名前を。そしてその人の特徴をたくさんその付箋に書き出してください。

参加者の質問

「誰と一緒にダイアログしたいですか？」

「その人はどんな人ですか？」

つづいて2枚目の「ゴール」の付箋にこのダイアログの場のゴールを自由に書き出してみてください。定量化できるのであれば可能な限り具体的な期限や数字を入れてみてください。

ゴールの質問

「ダイアログの場が終わった時、相手がどんな状態になると嬉しいですか？」

「ダイアログの場が終わった時、自分がどんな状態になると嬉しいですか？」

3枚目の「目的」の付箋にはその場の目的を書き出してください。ひとつ前に書き込んだ「ゴール」の状態を手にするのは何のためですか？ゴールの先にあるものを考えるとわかりやすいと思います。

目的の質問

「ゴールを達成することで、何ができるようになりますか？」

つづいては8枚目の「エンディング」の付箋に、ダイアログの場を終えたあとの参加者の状態やセリフをたくさん書き出してください。

エンディングの質問

「ゴールを達成した参加者は、喜びながらどんなことを言っていますか？」

「参加者は明日からどんな毎日を過ごしていきますか？」

そして4枚目の「オープニング」の付箋に、ダイアログの場が始まる前の参加者の状態や思っていることを想像してたくさん書き出してみてください。

オープニングの質問

「参加者は何に困っていますか？」

「参加者は心の中でどんなことを考えていますか？」

ここまでで、ダイアログの場の目的、ゴール、参加者のイメージ、オープニングとエンディングの参加者の状態が書き出されました。あとはSTEP.1～STEP.3の部分を考えていくのですが、今週はここまでにして、また来週に続きのお話をしていきますね。

「こんな風に活用したい」とか、「もっと具体的なことが聴きたい」とか、今回の内容で感じたことがあれば、「みんなのダイアログ」でお待ちしています。

みんなのダイアログ

<http://cobaken.net/webdialog/index.php?qa>